

## ■ 関東土木系学生会の現状と明日への希望

3月28、29日の両日、八王子のセミナーハウスにおいて第1回関東土木系学生会合宿を行ない、新旧役員の入れ換えが、なごやかな雰囲気の中で行なわれました。

それ以来、選出された役員はわずかな歴史による本学生会運営上の未熟さをはね返すかのように意欲に燃え、これからの活動に向けて前進するよう一致団結を誓いあいました。いままで、学会等の他の団体から何の援助も受けず、わずか会員1人50円の資金で活動してきたのでありますが、われわれの思うような活動ができないばかりか、一部役員が負担してまでも本学生会を盛り上げようと動きまわってきたことも事実です。そのような事情から本年度は会費の値上げをしようということと、われわれの学生会をもっともっと盛り上げて行こうということに新役員の意見が一致しました。昨年度は一般学生から、入会金の50円は何にもわれわれのためになっていないではないかという声がありましたが、しかしよく考えてみると、彼等はこの学生会が役員だけのものではなく、彼等自身のものだということを忘れて、自分がそれまで何の意見もいわずして、そのような愚問をなげているのです。しかし本年度は、われわれ役員は、200円に値上げしたなら、それだけの意義あるものを会員のおおのに還元しようではないかとの意志が高まってきたのです。そこでわれわれ学生は鈴木議長のいわれる通り入会員全員を対象にして種々の企画を行ない、そしてより多くの学生に学生会の会合、企画に参加していただき最大公約数としての学生会を築いていくよう努力することに意見は一致し、この意見にそって活動することに決めたのです。それは新役員が実質的な活動をする以前のことで、まず、われわれが企画したのはJOINT4号です。それは東大の後藤、小川の両氏などを中心として、現在の学生会、スウェーデンチャルマース工科大学学生との交流の結果、新役員の紹介、また、一般学生の投稿による随筆など、いままでただ事務的なものとしてのJOINTがそれから抜け出ようとする雰囲気を高め、非常に評判の良い中味の濃いものを発行することができました。特に新しく盛り込んだ雑談コーナーなどは大変人気がありました。そして、つぎに企画したものが、東大の小林助教授の(黒四ダムを担当されていた)講演会でありましたが、会場の学生講堂は200~300名を収容できるのに、集った学生はわずか50~60名に過ぎず、参

加した学生は一律に意義ある企画と感じ、われわれ役員に反響を示してくれました。しかし、われわれの対象にしている一般学生で参加しなかった人達の反響が全然ありません。これは非常に担当者を失望させるものとなります。願わくば、会場にも入りきれないという状態においてわれわれ役員を困らせるほどになって欲しいものです。少なくとも土木の学生であるなら……。しかしこのように一般学生に訴える以前に、われわれ役員も反省しなければなりません。たとえば、日程、時間、一般学生への連絡など企画に当って十分な配慮がなされだろうか。この講演会の後に、その日出席していた役員で反省会を開いた。何故、学生の集まりがわるいかという問題に対して、つぎのような意見が出た。

- ① われわれ役員の認識不足
- ② 時間的に問題があった
- ③ 各大学の連絡員の怠慢
- ④ 教授および一般学生へのアピール不足
- ⑤ 各大学ごとの組織が確立されていないため
- ⑥ その他

そこで、⑥の意見は、この講演会だけに関連するものでなく、われわれの組織自体に影響してくるもので、最も考えなければならない問題として浮び上がってきた。また、アピール不足に対しても、本学生会の方向づけに非常に重要な要素を含んでいるようです。つまり、入会者、会員のための学生会であることはもちろんのこと、アカデミックな要素をとり入れ、現時点においては(具体的にかわらない状態ではあるが)社会的に認められるには、アピールは学生、教授連などに対してばかりでなく、民間会社、官庁などに対しても行なう必要はなかろうか、ということになります。時期尚早との批判もありましたが、そして、各大学の土木科の組織化に努力する方が当面の問題であると結論されたのです。つぎに企画されたのが見学会です。全部で7コース。コースの数が多く企画者側はかなりの厳しさを感じましたが、「全会員を対象に考える」というわれわれの当初の目標に忠実でありたいと願ったからです。それゆえ、「見学会参加人数は、各大学ごとの入会者数によって比例配分する」という全く新しい企画を試みたわけです。結果からいえば、現在このような企画をするのは余りにも早かったと思われる。なぜかという、いくらわれわれが一生懸

命やっても、一般の会員の反応がないということはわれわれの企画がからまわりする結果をひき起してしまいます。つまり、見学をひき受けて下さった会社に迷惑をかけたり、この見学がごく一部の者だけのものになったりして、ただ、JOINTの配布を受けるだけの状態になるわけです。このような状態では、われわれの意図する活動は無益に終り、いままでのわれわれの企画が全く無意味であったのかと疑うようになるのです。しかし、見学会等の企画の必要性を認めるのは私を含めて多勢いることはいままでもないことです。われわれ企画を担当し、執行する者はすべての学生を対象とし、また、われわれの会の性質上の目標である「アカデミックな会」という言葉に忠実になろうとします。しかし、今後前進する会にしようと思うと、全会員を対象にするということは「アカデミックな会」に近づけようとするには障害になるのではないだろうかというような気がします。結局、この両方の根本は性質の異なるものと思える。今後の学生会活動に示唆する問題はここに存在するのではないのでしょうか。もう一つの問題は土木学会との関係です。現在、土木学会当局より「歩み寄り」を示して頂き、急速に発展しつつあります。これは、当初関東土木系学生会のみのものとして試案を提出したのですが、全国的なものになってきています。今後、各地区と綿密な連絡をとりながら審議して行かなければなりません。結局、今後の学生会はどうあるべきかとの問題に対して、つぎ

のようなことがいえるように思います。われわれは、今春の合宿で親睦だけでなくアカデミックな方向を選んだのです。その方法として、講演会、懇談会、講習会など一般的なものから、機関誌による研究発表、各大学共同テーマによる研究の発表会の催しなどがあります。もう一つは、企画の対象をどこへ置かかということです。アカデミックな方向へもって行くには、また、学校間の交流をもてるようにするには、各大学単位で各自の組織をつくらなければならないし、現段階では土木科を単位に組織をつくっているのは二、三の大学に過ぎず、大多数は任意的にこの会に参加しているようです。これでは、現在学会との関係に対する話し合いが進展し学生会が任意的な活動ばかりしていられなくなる状態において、連絡事務その他に大きな障害となるわけです。それゆえ、各大学における親睦の団体を教授との話し合いのもとに作って行く必要があると思います。また、これを助力するのも土木系学生会の仕事かも知れません。各大学で親睦をもつようにして、学生会は二、三の大学を対称にして討論会の場を用意したり、それをブロック別に行なったものを集計して総合的に討論し、一つの方向を示す。このような形でこれからやってはどうか。とにかく、問題点が多いことは今後発展する余地が沢山あるということでありませうか、ひとつずつ解決し少しでも将来のためになるものにして行きたいものです。

(関東土木系学生会 亀田嘉之・記)

## 泥水調整剤

近代土木用掘さくは  
泥水で能率化!

**テルナイトB  
バライト  
ベントナイト  
帝石テルセローズ  
海水用粘土**

1. 粘性をつける (ベントナイト、帝石テルセローズ)
2. 粘性の調節 (テルナイトB)
3. セメント浚い時 (テルナイトB)
4. 流動性の改善 (テルナイトB)
5. 比重の調節 (バライト)
6. 海水を用いる場合 (海水用粘土)

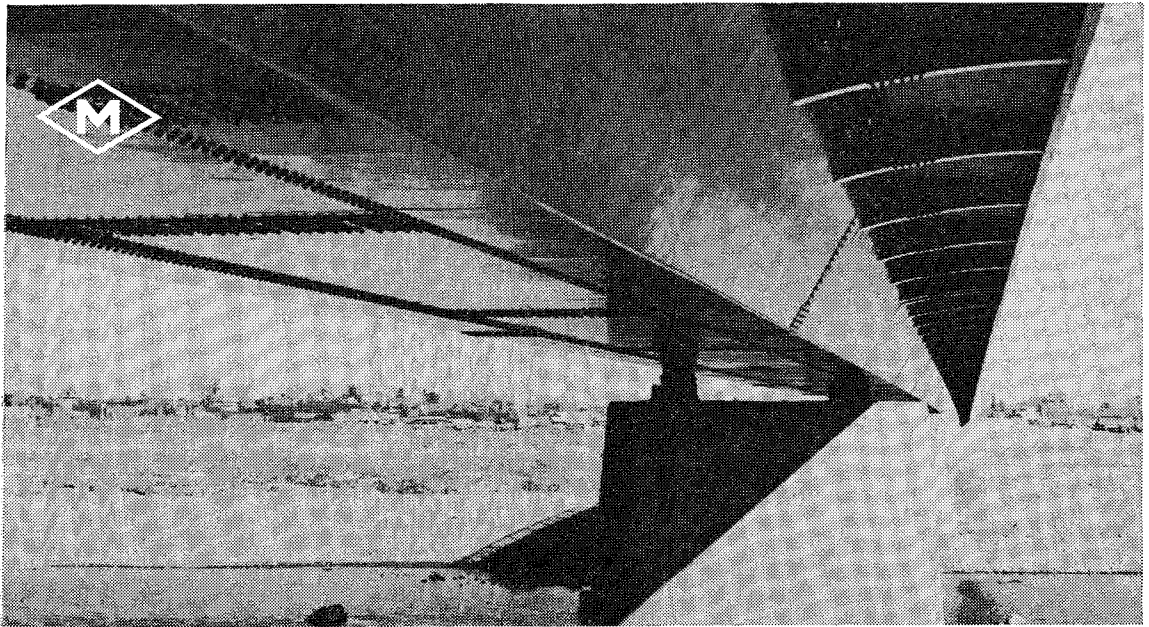


帝石テルナイト工業株式会社

東京都渋谷区幡ヶ谷 1 ~ 3 1

TEL (466) 0146~9

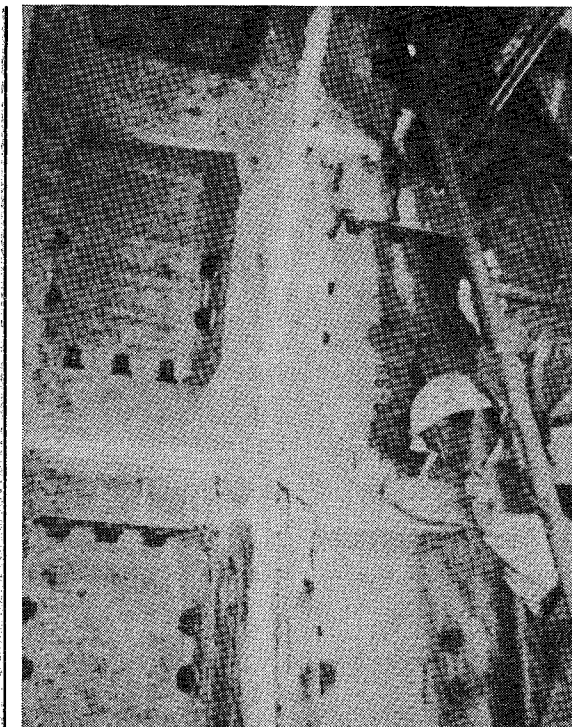
説明書進呈



多摩大橋

# 松尾橋梁株式会社

本社 大阪市大正区鶴町3-110 電話 552-1551(大代表)  
 支店 東京都江東区新砂1-7-1 電話 644-4131(代表)  
 工場 大阪・堺・東京・千葉



シールド工法による地下鉄工事に活躍するトーホーダイトE-4015

## トーホーダイト

高性能エポキシ系樹脂目地剤

(製造、販売、責任施工)

トーホーダイト E-4015

接着強度 17kg/cm<sup>2</sup>

耐水圧力 5kg/cm<sup>2</sup>以上

伸率 30%以上

## 東邦天然ガス(株)合成樹脂部

本社 新潟市医学町通り2番町36番地  
 BSN産業会館  
 電話 代表 29-2121  
 東京営業所 東京都中央区日本橋本町4-9  
 永井ビル  
 電話 (270) 4616